

柏市自立支援協議会全体会 部会報告シート①

<p>【部会名】 相談支援部会</p>	<p>【担当】 地域生活相談センター シャル 中道 なおみ</p>
<p>【開催報告】</p> <p>1 相談支援部会</p> <p>(1) 第2回：9月29日（金） 対面・リモート併用による開催</p> <p>ア 第1回自立支援協議会全体会、ノーマライゼーションかしわプランについて</p> <p><u>施策1 包括的相談支援体制の充実について</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・個人の質以上に社会資源のネットワークの質について検討する必要がある。地域の資源の質を上げていくと個人の質を担保できるのではないか。 ・地区別研修に求められているものが広がってきている。整理をしながら開催していくことが求められる。 <p><u>施策2 権利擁護体制の充実について</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・後見が必要だと感じた際に、一次相談窓口である地域の委託相談支援事業所に連絡が入るように周知が必要。 ・共生社会の実現を目標として掲げているので、項目として虐待防止が成年後見の前にくるべきではないか。 ・障害児のケースで事業所の虐待、保護者の虐待については相談員に相談するケースがほとんど。通報のシステムを皆が理解できるように研修が必要。部会で要検討。 <p><u>施策3 情報アクセシビリティの充実について</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・障害関係だけではなく、地域の方に対してアプローチしていかないと、地域共生への変化にはなりづらい。 ・福祉のしおりについて根本からもう一度検討して欲しい。 ・知りたい情報が発信されているのか。掲載されている情報とのずれはないのか。当事者のサービスを利用する権利を保障する必要がある。 →次回のプランで広範囲に情報が届くように検討できないか。 <p>イ 相談支援事業所アンケートの結果報告</p> <ul style="list-style-type: none"> ○地域移行サービスの制度について検討 ・独居になる前に試せる場所があれば地域移行も広がっていくのではないか。 ・病院側が対応してくれるので利用する必要がない。地域の体制が整っているのでサービスを利用していない可能性もある。 <p>ウ 柏市障害者相談支援従事者人材育成指針案について</p> <ul style="list-style-type: none"> ○望む相談支援専門員とは。 ・相談者の状況の把握をして、臨機応変に関わってくれる相談員。 →しっかりとしたアセスメントに基づいたサービス等利用計画書を書けるように研修を行う必要がある。 ○今後のスケジュールについて。 	

- ・令和5年度中に検討し、令和6年度には配布出来るように進めていく。連絡会、計画相談実務者ワーキングでも内容を検討する機会を設ける。

○相談支援専門員の役割とは。

- ・役割を決めるのは当事者、家族なのでそれぞれ違う。
- ・当事者が何を望んでいて、どこに繋いでいくのか。相談支援専門員と委託の役割を線引きしてしまうと今度はそれに捉われて動きづらくなる。人間の生活なので、やりとりによって変化していくものである。

2 相談支援連絡会

- (1) 第1回：7月28日（金） 対面・リモート併用による開催
事例検討（グループワーク）

○事例検討の目的：普段関わったことのないケースに触れ、今後の支援に役立てるため。様々な事例を通して、質の向上を目的とする。

ア 多職種連携調整

イ 加齢に伴う急激な状態変化がみられる利用者について

3 計画相談実務者ワーキングチーム

- (1) 第1回：7月5日（水） 対面

- ・委員の任期を含め、実施要項を作成するように検討する。
- ・現在委員の空きが2名あるので、事務局から依頼をする。

- (2) 第2回：9月20日（水） 対面

- ・新規委員として相談支援事業所FURANの宮ケ丁氏を選任。
- ・計画相談実務者ワーキングチーム要綱作成についてひな形を作成。次回までに事務局がたたき台を作成することとする。

【今後の活動予定】

1 相談支援部会

第3回：12月22日（金）対面・リモート併用による開催

2 相談支援連絡会

- (1) 第3回：10月27日（金）対面による開催（リモートの方は要相談）

- (2) 第4回：令和6年1月26日（金）対面・リモート併用による開催

3 計画相談実務者ワーキングチーム

第3回：12月20日（水）対面による開催

【部会名】 暮らし部会	【担当】 社会福祉法人彩会 平山 隆
【開催報告】 1 暮らし部会 (1) 第2回：9月25日（月）対面及びリモートによる開催 ア 柏市が必要とする日中サービス支援型グループホームについて（意見交換） <ul style="list-style-type: none"> ・通所には行っていない方が、日中生活をどのように過ごしているのか等のアンケートがあると、運営側にも伝わるので要検討。 ・評価時は指摘をするだけでなく、評価の仕方、伝え方にも努力が必要。 ・保護者が安心して預けられ、利用者がストレスを感じないよう、外部の目が入る必要がある。 ・生活介護事業所・グループホーム・保護者の情報共有やコミュニケーションが大切。 ・区分が高い方も入居でき安心ではあるが、現在の人員配置基準だと人手が足りない。人員配置基準をクリアしている事業所に対して指摘するのが難しい。 イ 生活介護事業所・地域活動支援センターの課題について <ul style="list-style-type: none"> ・生活介護事業所の医療的ケアが必要な利用者に関して、看護師だけでは回らず、喀痰吸引研修を受けた職員が対応しているが、医師の意見書以上のことを家族が希望し、吸引の回数が増加。どこまで要望に沿えば良いのか。 ・事業所、家族の役割について考慮し、お互い支えていくべきである。要求、評価の関係になってしまうとうまく回らない。 ・地域活動支援センターについては次回検討する。 ウ グループホーム等支援ワーカーについて <ul style="list-style-type: none"> ・8月に行われた柏市との話し合いで「地域移行・生活相談支援コーディネート事業」を検討しているという回答をいただいた。厚生労働省が示唆している取組の中に組み込み、地域移行などグループホームだけに留まらず、より広がった支援体制として設置。指定相談事業所から公募し委託という形で予算化を検討中。 ・全く新しい事業に予算をつけるのが難しいので、地域生活支援事業として実施を想定。 ・グループホームという名前を入れてもらわないと、目的が明確にならない。 エ グループホーム公募の募集要領案について <ul style="list-style-type: none"> ・目的を明確に捉えて運営してもらうために公募とした。 ・詳細の募集要項は作成中。令和6年11月頃確定。 ・詳細はホームページ掲載予定。 2 居宅支援連絡会 (1) 第1回：7月10日（月）対面及びリモートによる開催 ア 居宅アンケート結果と支援の課題について ―グループワークによる意見交換― <ul style="list-style-type: none"> ・余暇活動は減少した。 	

- ・移動支援では交通公共機関は使用しなかった。気温、感染症への不安のため車両での移動のニーズが高まっている。
- ・拘束時間が長いためヘルパーの負担も大きく退職も多い。なり手が少ない。
- ・コロナ禍では、他の事業所が対応できていない部分を担うことがあった。業績についての問題はなかったが、他事業所の対応でヘルパーの手当が大変だった。
- ・地域生活支援事業なので、土日の加算、真夏の外出時の移動支援手当、単位を上げるなどの考慮がないと事業として難しい。
- ・家族のコロナ感染、濃厚接触者の対応が難しかった。
- ・市からのマスク、手袋等の支援が助かったので引き続きお願いしたい。

イ 介護保険との関わりの課題について ―グループワークによる意見交換―

- ・介護保険事業所と障害福祉サービスの居宅支援事業所が同じ利用者に関わるケースが増加。どのように連携をとって支援していけばいいのか。
- ・65歳になり、障害福祉サービスから介護保険に移行する際の説明が難しい。高齢者支援課や障害福祉課、またサービス提供する事業所が情報を共有していく必要がある。
- ・同世帯で親が介護保険、子が障害福祉サービスの場合、時間の配分について、按分についてサービス内容や時間数が違うので大変。
- ・ケアマネージャーと相談支援専門員の情報共有、連携、引き継ぎが重要。
- ・障害福祉サービスを利用の方が65歳になって介護保険に移行する際に、心の準備も含め段階を積んでいければ。

3 グループホーム等連絡会

(1) 第1回：7月25日(火) 対面及びリモートによる開催

ア グループホーム等支援ワーカーの設置について

イ アンケート結果から、グループホームの課題を探る

- ・虐待にならない支援について意識化するとともに指導方法も検討したい。
- ・横の繋がりが少ないので、GHと訪問看護の情報共有が必要。
- ・緊急対応が大変。報酬面が見合っていない。
- ・障害福祉から介護保険の切り替え時に、支援員の知識不足や、情報の共有が難しい。また建物をどうバリアフリー化していくか。
- ・研修は内容と共に参加のしやすさがあると良い。
- ・物価高騰による負担増加に関して支援して欲しい。

【今後の活動予定】

1 暮らし部会

第3回：令和6年1月15日(月) 対面又はリモートによる開催を予定

2 居宅支援連絡会

第2回：令和5年11月29日(水) 対面又はリモートによる開催を予定

3 グループホーム等連絡会

第2回：令和5年11月22日(水) 対面又はリモートによる開催を予定

【部会名】 はたらく部会	【担当】 ビック・ハート柏 八木原 直彦
【開催報告】 1 はたらく部会 (1) 第2回：8月29日（火）対面による開催 ア 令和6年4月からの特定短時間労働者の雇用率算定の変更について <ul style="list-style-type: none"> ・就労継続支援B型の利用者にとって働く機会が増加するのではないかな。 ・能力があって働きたい方は加点になる。 ・中小企業に関しては負担度が多く、魅力を感じる企業は少ないのではないかな。 ・働き方としては本人の選択肢が増えるので良いのではないかな。 ・周知不足により実際の企業で特定短時間雇用の話は出てこない。 ・会社側で働くイメージが付きにくいのではないかな。 イ 令和6年4月からの民間企業の法定雇用率の変更について <ul style="list-style-type: none"> ・知らない中小企業も多いという意見があった。 2 一般就労連絡会 (1) 第2回：9月28日（木）対面及びリモートによる開催 ア 企業向け周知 キックオフミーティングについて <ul style="list-style-type: none"> ・参加企業を2倍に増やし10社目標。実行委員も増員し、11月20日開催予定。 ・8月初旬よりチラシ配布し、企業からの問い合わせ3件あり。 ・近隣市役所が行う雇用促進事業の参考にしたいと参加希望している企業もあり。 ・法定雇用の対象企業ではない事業所からも問い合わせが増えている。 ・当日は個別相談会も開催。 イ 支援者のスキルアップ なんでも座談会 <ul style="list-style-type: none"> ・前回28名の参加。経験年数に関係なく横の繋がりを作り、なんでも話せる交流の場として開催。 ・他の事業所の方と関わることのできる機会であり、業種の違う事業所と接点を得ることができ、価値観や意見も聞ける。 ・研修や勉強会が欲しいというニーズも高まっている。 ・10月25日、新メンバーを増員して開催予定。 ウ ジョブコーチの周知と活用 <ul style="list-style-type: none"> ・企業向けのチラシを作成。 ・市が市内の5法人と契約し、企業へ向けてジョブコーチを派遣している。 ・2, 3年前と比べて3～4倍の活用となっており、現在7名の方が支援を活用。 ・昨年は執行率90%以上。今年度も実績を増やしており、来年度は予算を増額して申請している。 ・今年度はジョブコーチの周知を目的とし、10名目標としたい。 ・企業側も安心でありジョブコーチからも使いたい利用者がいるという意見がある。 	

- ・ 今後は数値化して定着率を追っていくことも必要。
- ・ 他のサービスとの連携について、家族支援や福祉サービスが絡み複雑化し、ジョブコーチとしてのスキルアップも求められている。どのような評価を受けているか柏市と一緒に考えていく必要あり。
- ・ 企業同士の横の繋がりにまでに拡げていけたら良い。

エ 一般就労連絡会委員向けアンケート（困り事等）結果の情報共有や意見交換

- ・ 就労支援事業については利用者の不足や支援に関する困りごとが多い。
- ・ 支援や関係機関との連携、人材に関する悩みが多い（学校関係）
- ・ 他の福祉サービスとの連携事例を知りたい。
- ・ 人材確保の方法を知りたい。
- ・ 引きこもりの方が参加するイベント、行政主催の定着支援のイベントを知りたい。
- ・ 就労移行事業所全般が定員に達していない事実がわかった。今後も定期的なアンケートが必要。

オ 障害者雇用特定短時間労働について ～松戸公共職業安定所 三橋氏より

- ・ 松戸管内の状況として43.5人以上の事業所が454事業所。未達成の会社233の事業所に対してゼロ人雇用が133事業所。
- ・ 反応鈍く、重度の身体、知的、精神障害に関して二の足を踏んでいる事業所が多い。

3 福祉的就労連絡会

(1) 第2回：9月28日（木）対面及びリモートによる開催

ア 合同販売会の開催について

(ア) 「かしわMONOづくりマルシェ in 道の駅しょうなん」情報提供

- ・ 三者（農政課、しょうなん、障害福祉課）で再度協議、詳細を詰め直した。
- ・ 今年度は6回実施、各実施日で〆切を設けるため、希望する日にちのみの出店も可。
- ・ 販売時間は9時から12時で、9時から開始できるよう準備。職員1名は必ず付き添う。
- ・ 最大20事業所迄で、最低3事業所からの開催。1事業所しか集まらなかった場合は、事前連絡にてその月は中止。

(イ) 豊四季台地域活動館での活動の活性化に向けて

- ・ 前回の連絡会でも、人の出入りが落ちているという話もあり。
- ・ 柏市社協の方が予算を持ち、現在チラシを作成中。色々な場所に貼らせていただいたり、ポスティングをする流れになっている。また、地域活動館の地域月間スケジュールに大々的に宣伝する案もあり。

(ウ) 「柏MONOづくりマルシェ in ラコルタかしわフェスティバル」（あえーるテラス共催）販売会の実施について

- ・ 日時 令和6年11月11日（土）12時から16時
令和6年11月12日（日）10時から16時

- ・場所 教育福祉会館1階入口(天候により屋外もあり)。
- ・規模 6事業所まで可

イ 柏市障害者就労施設ハンドブックについて

※対面参加者には配布。Zoom参加者には事業所に後日郵送予定。

- ・QRコードについては、この連絡会で協議し、裏表紙に挿入することに決定。
- ・冊数については、一番利用する学校関係で、柏特別支援学校では250冊(最大で)、東葛の森支援学校では100冊程度、つくし特別支援学校ではブース設置で30冊程度置く等の意見あり
- ・各事業所は基本1冊として、A型B型事業所の他、相談支援事業所にも設置した方が良いとの意見。
- ・要望により追加支給できるようにすれば良いのではとのこと。

ウ 農福連携の取組みについて(情報発信等)～JAちば東葛 川島氏より

- ・NHKでの農福連携の放映について

反響が良く、英語版のリメイクとして国際版で世界にも放映された。今後、NHK担当者とその続編というお話も出ており、その時はお力添えいただきたい。

- ・仕事のご依頼(木村ピーナッツ様より:詳細は後日)

内容:ピーナッツのクラッシュ作業(ソフトクリーム等に使用)

利用者ペースでOK。普段の作業をしながらピーナッツクラッシュ作業を行い、終わりそうな所で引き取りに来ていただける。

ご興味ある事業所は声掛けを。詳細は追って連絡。

エ いちご農家との連携について

- ・いちご農家との連携の取り方等については、相手の農家とのマッチングが重要。今は、臨機応変に調整できる農家さんとやらせていただいている
- ・新規に始めるのであれば、川島氏にマッチングを依頼すると良いと思う。
- ・最初はおためし農福で始めて、少しずつ広げた。地域との繋がりということで、アグリビジネス事業のイベントとも参画。
- ・いちごの収穫が終わり頃になると利用者さん向けに食べ放題、摘み放題の日を作り、利用者さんの楽しみを作りながら、農家でも色々と工夫してくださる。

【今後の活動予定】

1 はたらく部会

第3回 令和6年1月9日(火) 15時～

2 一般就労連絡会

第3回 令和5年12月20日(水) 13時半～

〈なんでも座談会〉

第1回 令和5年10月25日(金) 16時半～18時

3 福祉的就労連絡会

第3回 令和5年12月20日(水) 15時半～17時

【部会名】 こども部会	【担当】 社会福祉法人 桐友学園 新福 麻由美
【開催報告】 1 こども部会 (1) 第2回：9月20日（水）対面及びリモートによる開催 ア 安全計画について（指導監査課より） <ul style="list-style-type: none"> ・策定は令和6年4月から義務化（現在経過措置）。 ・安全計画とは、事業所の内部の設備に関する点検をすること、普段使用している車や送迎ルート等について、どのように安全を確保していくのか具体的な取組を明記とされている。既存の避難訓練や防災計画に肉付けをしていくことも一つ。 ・今年度これから実施指導に伺う事業所で計画策定しているか否かは口頭確認を行う。 ・併せて「感染症の予防及びまん延の防止のための対策をする委員会の開催等」も令和6年度より義務化。 【質疑応答等】 <ul style="list-style-type: none"> ・活動全てに関しての安全計画となる。食事や感染症、火災等々、全ての計画を盛り込まないといけないのでとても大変。早く国は雛形を示すべき。 ・市等が作成している安全計画は、途中版と完成版共に共有する。 ・来年度から様々な委員会の立上げが必要。小規模事業所などは、複数の委員会を一緒にやって差し支えない。また全員が委員で構わない。 イ 児童発達支援センターについて 【質疑応答】 <ul style="list-style-type: none"> ・令和4年6月に成立した改正児童福祉法の施行（令和6年4月）に向けて、児童発達支援センターが中核的な役割を果たせるよう、機能の強化が求められている。 ・その一環として、困り感や希望などの保護者のニーズ調査や地域の事業所のニーズ調査の実施を検討する。 ・また、児童発達支援センターは地域の事業所の体験研修を検討する。 2 事業担当者会議 (1) 第1回：7月20日（水）対面及びリモートによる開催 ア セルフプランの実情と記入内容（グループワーク） <ul style="list-style-type: none"> ・セルフプラン記入のサポート方法やそれに伴う困り感、利用計画への繋げ方について、またセルフプランと個別支援計画との兼ね合いについて等、事業所ごとに挙げて意見交換。 【質疑応答・意見】 <ul style="list-style-type: none"> ・セルフプランについて柏市の現状は、年間400件程セルフプランを利用している。障害の程度は関係なく万遍なく利用されている。 ・保護者に説明する際に、相談支援とは何か、どんなメリットがあるか説明が出来る資料があると理解しやすい。 	

- ・どこの事業所もセルフプランが多い実情がある。理由として、①保護者が早く事業所を使いたい。②相談支援事業所に繋がりたいが空きがない。③サービスを早く利用するために、市役所の窓口がセルフプランを推奨する。相談支援の部分を含めて、こども部会に報告をして改善に繋がるようにしたい。

イ 支援に関する困り感について (グループワーク)

- ・事業所内の課題、困り感等について意見交換。

【意見発表】

- ・性の悩み、他害について。
- ・家庭環境が複雑な家庭について相談先の情報が欲しい。
- ・コミュニケーションが難しい児童にどのように伝えていくか、また理解できるかについて難しさを感じる。
- ・シフト制で研修の時間が取れない等、育成で悩んでいる。eラーニングを利用している事業所もある。
- ・検討が必要なものに関しては掘り下げていく。

2 早期支援担当者会議

(1) 第2回：10月6日(金) 対面による開催

- ・サポートファイルについて、医療情報の多いケースを中心に現状の共有。
- ・医療的ケア児等の事業所利用状況の共有。

3 児童発達支援連絡会

(1) 第1回：7月10日(月) 対面による開催

ア 新規事業所紹介

イ 情報共有

- ・実地指導の要点及び事例について
- ・定員超過について

ウ パンフレットスタンドについて

【今後の活動予定】

1 こども部会

第3回：令和6年1月10日(水) 対面又はリモートによる開催

2 事業担当者会議

第2回：令和5年11月27日(月) 対面又はリモートによる開催

3 早期支援担当者会議

未定

4 児童発達支援連絡会

第2回：令和5年11月から2月頃開催予定

<p>【部会名】 柏市障害者差別解消支援地域協議会 柏市権利擁護ネットワーク会議における 障害者に関する専門部会</p>	<p>【担当】 障害福祉課 石月・鈴木</p>
<p>【開催報告】</p> <p>1 柏市障害者権利擁護研修会</p> <p>(1) 第1回：7月21日(水) 対面及びWEBによる開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講演 「障害者虐待防止について」 ・講師 東葛総合法律事務所 萩原 得誉氏 ・会場参加3名, ZOOM参加174名, 計177名の出席 <p>2 東葛市町村虐待防止担当者連絡会</p> <p>(1) 第1回：8月18日(金) 対面による開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・議題① 令和4年度障害者虐待支援体制と対応状況について ・議題② 事例検討 ・オブザーバー 千葉県虐待防止アドバイザー 市岡 武氏 ・参加者 松戸市障害福祉課 4名 流山市障害者支援課 1名 我孫子市障害者支援課 2名 野田市障がい者支援課 1名 <p>3 柏市障害者虐待防止サポートチーム事業(モデル試行)</p> <p>(1) スマイルハート：8月18日(金)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・内容 「対人援助職の聴く力・伝える力」「精神障害の基礎知識」 ・講師 地域生活支援拠点たんぽぽ 主任相談支援専門員 小助川 左代氏 <p>(2) 豊四季光風園：8月23日(水)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・内容 「障害者虐待防止法について」「障害者虐待事件から考える」 ・講師 東葛総合法律事務所 萩原 得誉氏 <p>(3) クリード北柏：9月12日(火)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・内容 「障害者虐待防止法研修」 ・講師 社会福祉法人フラット 理事長 林 晃弘氏 <p>(4) DAYS：9月15日(金)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・内容 「障害者虐待防止法研修」 ・講師 千葉県虐待防止アドバイザー 市岡 武氏 <p style="text-align: right;">(次ページへ)</p>	

【今後の活動予定】

- 1 柏市障害者差別解消支援地域協議会及び柏市権利擁護ネットワーク会議における障害者に関する専門部会
第2回：令和6年2月9日（金）対面及びWEBによる開催
- 2 東葛市町村虐待防止担当者連絡会
第2回：令和6年1月26日（金）対面による開催
- 3 柏市障害者権利擁護研修会
第2回：令和6年1月頃開催予定
内容 「強度行動障害の子をもつ親の講和」
- 4 柏市障害者虐待防止サポートチーム事業（モデル試行）
 - (1) NPO法人真ごころ：10月17日(火)
 - (2) NPO法人はなみずき：11月15日(水)
 - (3) その他4法人：時期未定，今年度中に合同で実施予定

【部会名】 柏市障害児等医療的ケア支援連絡会	【担当】 事務局 社会福祉法人ぶるーむ 後藤
【開催報告】 1 全体会 (1) 第1回：7月24日(木) 14時～16時 地域生活支援拠点ぶるーむの風にて (Zoomによるオンライン併用) ア 報告事項 ① 連絡会設立の趣旨及びこれまでの活動実績等についての説明。また会の目的を市への政策提言から地域課題の整理及び解決に向けたネットワーク作りにシフトするよう、要領の内容を変更した。 ② 保育運営課、児童生徒課から、それぞれ市立保育園及び小学校での医ケア児受け入れの状況について報告。 ③ 障害福祉課から、医療的ケアを必要とする方に関する調査の進捗状況の報告。 ④ 事務局から、6月19日地域保健課との面談について報告。 イ ノーマライゼーションかしわプラン2024について 現行プランまで柱4に章立てされていた医ケアに関する課題について、次期プランでは独立した章立てにせず各柱に分散することについて説明と意見交換を行った。 ウ ワーキング報告 成人、児童の各ワーキングの活動について報告及び意見交換を行った。 2 コアメンバー会議 7月14日(金) 14時～15時20分 柏市役所新館4階会議室 全体会で報告、協議すべき議題について確認、整理した。 【その他】 <ul style="list-style-type: none"> ・6月19日、事務局が地域保健課を訪問。妊娠期～申請時期における地域保健課の役割及び医ケアコーディネーター等との連携体制について意見交換を行った。 ・成人ワーキングにて、特定行為研修修了者に対するフォローアップ研修の開催を検討。修了者に対して研修内容の希望等についてアンケートを実施した(集計中)。 ・児童ワーキングは上半期活動なし。今後医ケア児の育ちに係る課題整理及びロードマップ策定に向けたワーキングを開催予定。 	
【今後の活動予定】 1 次回全体会は年度末に開催予定。 2 コアメンバー会議は、プラン策定の進捗状況により必要に応じ随時開催予定。 3 特定行為フォローアップ研修 アンケート結果を踏まえ研修内容を検討、年度内に開催を目指す。 4 2023年10月14日(土)「医ケアっ子の未来をつくる千葉の会」事務局がイベント運営に参加	

【部会名】 柏市精神障害にも対応した地域包括ケアシステム構築推進事業	【担当】 たんぽぽセンター 上野
【開催報告】 1 コア会議 (1) 第2回：6月28日（水）対面による開催 参加者：12名 ア 第2回実務者会議の内容検討 SOSプランの周知及び初石病院の見学ツアーとする。 イ ピア活動の講師報酬設定 他圏域の状況も確認の上、再度検討することとした。 ウ ノーマライゼーションかしわプラン2024への提言について 意見の集約を行なった。 (2) 第3回：8月23日（水）対面による開催 参加者：13名 ア 第3回実務者会議の内容検討 障害福祉と介護における連携をテーマに協議することとなった。 イ ノーマライゼーションかしわプラン2024への提言について 障害福祉課天玉氏にご参加いただき、意見交換を行なった。 2 実務者会議 (1) 第2回：7月24日（水）対面による開催 参加者：33名 ア 医療と地域の連携に関する協議～SOSプランの理解～ 昨年度までの医療グループの取組み及びSOSプラン作成方法の共有を実施。 イ 初石病院見学会 初石病院の協力により病棟・デイケア等の院内の見学を実施。 (2) 第3回：9月27日（水）対面による開催 参加者：37名 ア 障害福祉と介護の連携に関する協議 柏東口地域包括支援センター曾波氏、柏市地域包括支援課長谷部氏、柏市障害福祉課大塚氏より、制度や現状等について話題提供いただき、連携に関するグループワークを実施した。 【その他】 1 令和5年度第1回圏域連携コーディネーター会議 9月4日（月） 対面参加 (1) 各圏域の取組みについて 各圏域の取組み状況について報告・共有を行なった。	
【今後の活動予定】 1 コア会議 第3回：10月25日（水）対面による開催 2 実務者会議 第4回：11月22日（水）対面による開催 3 代表者会議 令和6年1月11日（木） 開催方法は検討中	

【部会名】 柏市地域生活支援拠点運営協議会	【担当】 障害福祉課 鈴木・小野
※前回全体会以降、会議開催なし。報告シートの内容は前回同様。	
【開催報告】 1 柏市地域生活支援拠点運営協議会 (1) 第1回：6月23日（金）対面による開催 ア 令和4年度柏市相談支援機能強化事業等評価について ・地域生活支援拠点の5つの機能及び基幹相談支援センターの役割項目についての評価報告を行ったところ、今後より一層のサービス向上に向けてどのようにしていくべきか等の改善点やアドバイス等も評価に挙げていただきたいという意見があった。 イ 令和5年度各拠点の活動計画について ・各拠点代表者から令和5年度における活動計画について報告していただき、意見交換を行った。どの拠点においても新規相談件数の増加に伴い、計画の立案等の対応をせざるを得ない状況もあるが、全てを拠点では賄いきれない為、地域の相談支援事業所との顔の見える関係づくり及び多職種含めた連携体制の強化が課題との事だった。 ウ その他 ・緊急時の受入れについて意見交換を行ったところ、障害者手帳や区分もなく、持ち金のない方は償還払い扱いで、後から支給が下りるかも不明慮な中、受入れをするか、持ち金のある方であれば、実費で受入れをしている状況で、拠点が安心して緊急時の短期入所を受入れできない。また万が一何かあった場合の保険も効かないという問題も絡んでくる等の懸念があるとの事だった。 ・特例介護給付費について、制度改正がされ現在は償還払いではなく、代理受領も可能となってきている為、今後の緊急時の受入れの際に、特例介護給付費をもって対応していけるか等を検討を進める方針とした。	
【今後の活動予定】 1 柏市地域生活支援拠点運営協議会 令和5年度は、年2回の開催予定 次回開催日時は、令和6年1月頃を予定	